

女医のパイオニアは埼玉出身！

萩野吟子



マンガで紹介
日本第一号の女医
誕生ストーリー



はじめに

明治初め、当時、女性が医師になる道が閉ざされていた時代、不屈の精神で日本初の女性医師となり、女性の地位向上に貢献した埼玉の女性がいました。彼女の名は荻野^{おぎのぎんこ}吟子。その波乱の人生とは…。



目次

No.1	女医への決意……………	p 1
No.2	女医への困難な道のり……………	p 5
No.3	日本初の女医 誕生……………	p 9
No.4	女性の地位向上を目指して……………	p 13

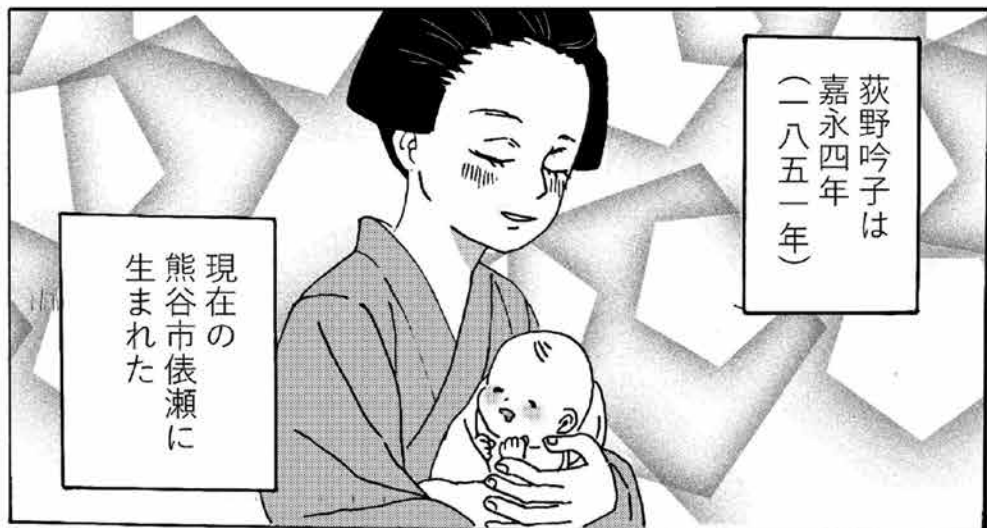


主な年表

年	主な出来事
1851(嘉永4年)	俵瀬村（現熊谷市）で誕生
1868(慶応4年)	結婚
1870(明治3年)	病気で協議離婚 入院、女医を志す
1875(明治8年)	東京女子師範学校入学
1879(明治12年)	私立医学校好寿院入学
1882(明治15年)	同院を卒業 医術開業試験願書却下続く
1884(明治17年)	医術開業試験受験許可
1885(明治18年)	試験合格。医院開業

年	主な出来事
1886(明治19年)	本郷教会にて洗礼を受ける その後、東京婦人矯風会入会
1887(明治20年)	大日本婦人衛生会設立
1890(明治23年)	議会婦人傍聴禁止撤回運動 再婚
1894(明治27年)	渡道。夫とともにキリスト 教による理想郷を目指す。
1905(明治38年)	夫の死去
1908(明治41年)	東京へ戻り、医院を開業
1913(大正2年)	死去（62歳）

No.1
女医への決意



荻野吟子は
嘉永四年
(一八五一年)

現在の
熊谷市俵瀬に
生まれた



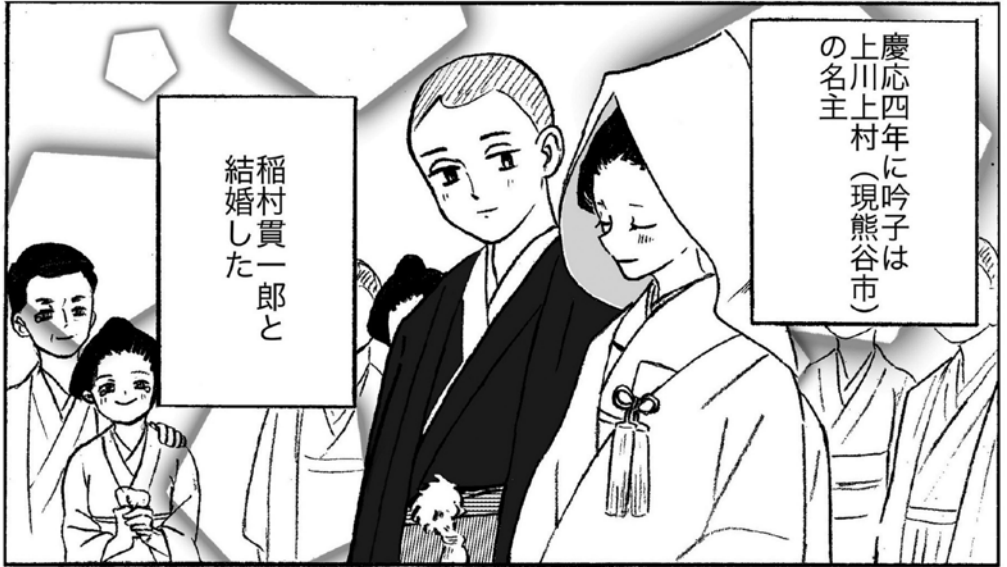
幼いころから
学問を好む
聡明な子であり

父親が講師を
招いた際には
兄たちよりも
熱心に講義を
受けていたという



時は流れ
吟子は気立ての良い
娘に育った

そして吟子は
17歳になった



慶応四年に吟子は
上川上村（現熊谷市）
の名主

稲村貫一郎と
結婚した

しかし、幸せな生活は
長く続かなかった

吟子は不慮の病に
侵されてしまい

今まで大変
お世話になりました

この御恩……
決して忘れません

結婚して二年ほどで
協議離婚した





吟子は、婦人科治療を受けるために上京し、
大学東校（後の東大医学部）
の付属病院へ入院した

嫌です!

私は女のお医者様に
診ていただきたい!!

落ち着いてください

今治療を行わないと
手遅れになります



辛かった...

私以外にもこんな苦しい
思いをしている女性が
たくさんいると思うと

心が痛む...
でも、だからこそ



でも

荻野さん



この国には絶対に
女医が必要だ

女医になって
多くの女性を
救いたい...!

聡明な子ども時代

吟子は嘉永4年(1851)3月3日、幡羅郡^{はたらぐんたからせ}俵瀬村(現熊谷市俵瀬)の名主、荻野綾三郎・嘉与^{かよ}の五女として生まれました。荻野家は、俵瀬村の名主として村運営の中心を担った家でした。

吟子の父は、我が子の教育のために講師を招いて学問を講じてもらっていました。幼い吟子はままごと遊びに夢中になっているときも、講義が始まるといつのまにかその席に座っていたという話が残るほど、学問好きで聡明な子どもでした。



荻野吟子生誕之地史跡公園

最初の結婚

慶応4年(1868)、吟子が17歳になる時に、埼玉郡上川上村(現熊谷市上川上)の名主、稲村貫一郎と結婚しました。貫一郎は埼玉県初の政治的社交団体「七名社」の構成メンバーとなり、埼玉県会副議長を務め、銀行の設立に関わるなど、近代埼玉の発展に尽力した人物で、二人の結婚は村人の羨望を一身に集めました。

しかし、結婚生活は長く続きませんでした。吟子が不慮^{かか}の病に罹り、実家での療養を余儀なくされ、明治3年(1870)に協議離婚しました。

入院と女医への決意

吟子は松本万年^{まつもとばんねん}の薦めで大学東校^{とうこう}(後の東京大学医学部)の付属病院に入院し、生死をさまようほどの病状となり約2年間入院しました。

吟子は入院中、男性の医師に治療を受けた際に耐え難いまでの羞恥^{しゆうち}と屈辱^{くつじやく}を感じました。女医の必要性を痛感し、吟子自身が女医となる決意をしたのでした。



大学東校(後の東京大学医学部)

No.2 女医への困難な道のり

女医となる
決意を抱き

吟子は
東京女子師範学校に
入学した

地理、歴史、
物理、化学、
数学、博物学、経済学
教育論、簿記法、
養生法、唱歌、
体操など
多くの教科の
勉学に取り組み
医師に必要な人格の
形成に励んだ

※天は自ら助くる者
を助く

天は自分自身で
努力する人に
手を差し伸べる…
なるほど

※当時のベストセラー
「西国立志編」の冒頭句

英国のサミュエル・スマイルズの
「自助論 Self Help」を
東京女子師範学校で講義を行っていた
中村正直が翻訳

「女が医者を目指すのは
おかしいだろう」か…

…よし！

絶対に
医者になって
みせる

吟子は好成績を
収めた

明治十二年
東京女子師範学校を卒業

荻野さんは卒業後
どうするつもりですか

わたしはかつて
大きな病で
入院した経験が
あります

患者の苦しみを知り
医師にならねばと
決心したのです

女医が果たす
役割がある
はずです



医学学校への女子の
入学は難しいが...

それでは石黒忠恵さんを
紹介しよう

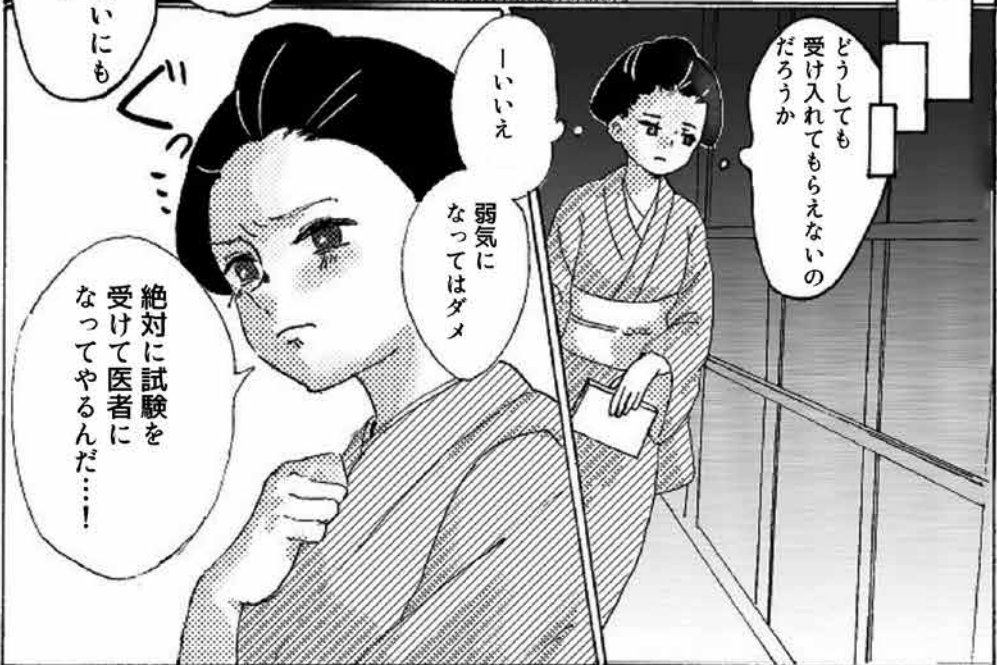
—石黒忠恵は
当時の医学界の重鎮で
後に
陸軍軍医総監となった

吟子は石黒忠恵と面会し
女医への思いを訴え
医学学校好寿院への入学を
許可された

男尊女卑の風潮が強い時代
女子学生への偏見も強く
当時5、6人いた女子学生も
吟子のほかは
辞めてしまいました

しかし吟子の学問に
対する情熱や
前向きな人柄に
男子学生たちも男女の
偏見を捨てて親しく声を
かけるようになった

吟子は好寿院の
三年間を好成績で
修了したのである



学問の修得

退院後、吟子は、妻沼で松本万年に学び、上京後、国学者の井上頼^{よりくに}固の門下になるなど、一流の学者のもとで学び、教師として活躍し、十分な教養を身に付けていました。明治8年（1875）、この年開校したばかりの、女性の教員養成を目的とした初の学校である東京女子師範学校（現お茶の水女子大学）に入学し、明治12年（1879）に卒業しました。



当時の東京女子師範学校（現お茶の水女子大学）



東京女子師範学校卒業時の荻野吟子（上段後列左端）

医術を学ぶ

当時は、女性が医者になることなど考えられない時代であり、ましてや医学校への入学は難しいものでした。卒業にあたり、吟子は、教官の永井久一郎教授に、女医を目指していることを明らかにしました。永井の紹介により、吟子は、医学界の重鎮で後に陸軍軍医総監となる石黒忠^{いしぐろただのり}恵に面会することができました。

石黒は、吟子のために尽力し、明治12年（1879）、吟子は私立医学校「好寿院^{こうじゅいん}」に入学することができました。吟子は学費等を工面するために家庭教師や教育顧問を勤めながら、明治15年（1882）、優秀な成績で好寿院を卒業しました。

女医への困難な道のり

しかし、卒業後が正念場でした。私立の医学校卒業生は、政府の行う医術開業試験に合格しなければ正規の医師になれませんでした。特に、女性で医術開業試験を受けられた例はありませんでした。当時、女性が医師になることへの抵抗は非常に大きかったです。これから鉄の扉を開けるべく吟子の果敢な挑戦が始まるのでした。

日本初の女医 誕生

吟子は好寿院に入る際に助力を得た石黒忠憲を訪ねた

はっきり言って
女性が医師になる試験を
受けるのは難しい

「女性が医師になってはいけない」という条文はないんだ
私が内務省衛生局長に
そう話してみよう

そして君が直接
衛生局長に
会って頼むといい

だかしかし

ぜひ

やらせてください

こうして吟子は、
時に衛生局長である
長与専齋（ながよ せんさい）と面会する
ことになった





お母さん!

試験合格後、
母危篤の知らせ
を受けて

吟子は故郷の
依瀬に向かった

ああ…
ぎんか?

近くに
座っておくれ



…ぎん、おめえ

医者になれたんだってな

良かった

ぎゅ

この後、吟子は
産婦人科「荻野医院」を
開業し、そこで
診療を行った

彼女のもとには医者
をを目指す女性が多く
寄宿していたという



…はい

不屈の請願

吟子は、医術開業試験の受験を諦めきれず、石黒忠憲のもとを訪ね、助けを求めます。石黒は内務省衛生局長の長与専齋ながよせんさいに面会し、「女医になれない条文がない以上、試験を受けさせるべきだ。」とかけあいました。

吟子はついに、長与専齋との面会を果たしました。吟子は、古代律令の解説書りょうのぎげ「令義解」に女医の記述があることを訴えました。

この「令義解」を校訂し、後世に引き継いだ人が、埼玉の偉人「塙保己一」でした。塙保己一は、吟子が医者になることを手助けしたと言えるでしょう。こうした吟子の女医への熱い思いが通じ、ついに、明治17年(1884)に女性の受験が認められたのでした。



当時の内務省

日本最初の女医の誕生・荻野医院の開設

明治18年(1885)3月、吟子は、周囲の注目が集まる中、女性で唯一医術開業試験に合格し、医籍登録されました。ここに日本最初の公認女性医師、荻野吟子が誕生しました。

試験合格後、吟子は母危篤の知らせを受け、故郷俵瀬に駆け付け、母の死と向かい合いました。

吟子には悲しみに暮れている時間はありませんでした。母を亡くしたその翌月には、本郷三組町(現東京都文京区)で「産婦人科 荻野医院」を開業し、患者の増加に伴い、下谷西黒門町(現東京都台東区)に移りました。

荻野医院には、若い女医の卵をはじめ、多くの女性が寄宿していました。



熊谷で撮影された
鹿鳴館スタイルの荻野吟子

No.4 女性の地位向上を目指して



明治一九年（一八八六年）
吟子はキリスト教信者の洗礼を受けました



医師として多忙な日々を送る吟子……



キリスト教の演説会？



その後、吟子は当時の女性社会運動の中心であった東京婦人矯風会きょうふうかいに入会

明治二十年（一八八七年）大日本婦人衛生会を設立

風俗部長となり
廃娼運動に
真摯に取り組む
など

吟子は多くの社会運動に熱心に取り組んだ

明治二十四年
(一八九一年)



岐阜県を震源とする
濃尾大地震が
発生した

そんなある時

荻野さん
お久しぶりです



石井亮一(日本の知的
障害児教育の創始者)
が訪ねてきました

本日は濃尾大地震で
孤児となった子供達について
相談に参りました

わかりました!!



吟子は石井に賛同し
荻野医院を開放

女子の孤児たちを
保護し、自ら孤児たちの
世話をした

地震で孤児と
なった女兒たちが
頼れるところが
ないのです

何とかして保護して
あげたいのですが:

.....



明治二十三年
吟子はキリスト教信者の
志方之善と出会い



周囲の反対を
押し切って
二度目の
結婚をする

吟子
三十九歳の
ことだった

しかし、理想郷建設は
困難を極め撤退

キリスト教徒の
理想郷の建設を
目指して吟子は
志方とともに
北海道へ渡った



インマエル

一方、吟子はその
後も医師として
そして社会活動に
尽くした

大正二年六月
吟子は六十二年の
生涯を終えた

吟子は
「人その友の為に己の命をすつる
之より大いなる愛はなし」
という聖句を愛唱した



この聖句どおり彼女は不屈の
精神と大いなる愛で
偉業を成し遂げたのだった
今もなお彼女の生涯は多くの
人々に語り継がれている



吟子を尊敬する若き
女医たちが彼女の
葬儀に立ち会った

女性の権利確立を目指して

吟子は、診療を続けるうちに、患者の背景に貧困や社会習慣等の問題を感じ、明治19年（1886）にキリスト教に入信しました。同年、東京婦人矯風会きょうふうかいに入会し、その後、風俗部長となりました。特に廃娼運動に熱心に取り組み、ほかにも、女性の権利確立のために先頭に立って活動しました。

明治20年（1887）には、大日本婦人衛生会を設立し、明治23年（1890）には、衆議院の婦人傍聴禁止の撤回運動に参画し、撤回を勝ち取りました。

さらに、明治25年（1892）に論文を発表し、女医の必要性、大学への女子の門戸開放及び医学部を備えた女子大学の設立を訴えました。

明治24年（1891）に起きた岐阜県を震源とする濃尾大地震のうびでは、石井亮一（日本の知的障害児教育の創始者）に賛同し、荻野医院を子供たちのために開放し、自らも孤児たちの世話を行いました。



中央後方が夫の志方之善

第2の結婚、そして渡道

明治23年（1890）、吟子は、青年キリスト教伝道師し志方之善かたゆきよしと巡り合い、周囲の反対を押して、同年11月に結婚（吟子39歳、之善26歳）しました。

北海道にキリスト教徒の理想郷を建設する志をもった二人は、結婚してからわずか半年後に、まず、夫之善が、北海道に渡りました。

吟子は、明治27年（1894）、インマヌエル（現北海道今金町）に入植しましたが、理想郷建設は思うように進まず、明治30年（1897）には、瀬棚村せたな（現北海道せたな町）に移り、医院を開業しました。

明治38年（1905）、夫が41歳で急逝きゅうせいし、吟子は、明治41年（1908）に帰京し、本所区新小梅町（現東京都墨田区）に医院を開業して晩年を送り、大正2年（1913）6月、波乱に満ちた生涯を閉じました。享年62歳。



吟子の墓地に建てられた像



荻野吟子をもっと知りたい方は…

- 熊谷市立荻野吟子記念館

<https://www.city.kumagaya.lg.jp/smph/shisetsu/bunka/oginoginkokinenkan2.html>

- 埼玉県人権・男女共同参画課ホームページ「荻野吟子について」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0309/danjyo-ginko/oginoginko.html>

※ 本作品もここから閲覧できます。



マンガを担当 熊谷女子高校 漫画愛好会

熊谷女子高校は、吟子が日本で初めて女医となった26年後の明治44年（1911年）に創立。学校のモットーは「まっすぐに、しなやかに、学業・学校行事・部活動に取り組むこと」です。

今回、漫画愛好会の皆さんには、地元の偉人でもある「荻野吟子」のマンガ紹介に意欲的に取り組んでいただきました。



漫画愛好会の皆さんからのメッセージ

私たち漫画愛好会は3年生4人、2年生5人、1年生5人、部員それぞれが自主制作を中心にのんびりと活動しています。ですが今回は、埼玉県県民生活部男女共同参画課（当時）から「荻野吟子」の漫画制作のお話をいただき、部員全員で一致協力して制作に取り組みました。

このマンガが荻野吟子を知るきっかけとなり、若い人も含め多くの人が地元埼玉県の良さを再発見してもらえることを願っております。

マンガで紹介

荻野吟子～女医のパイオニアは埼玉出身！～

発行：埼玉県県民生活部人権・男女共同参画課

漫画：埼玉県立熊谷女子高等学校 漫画愛好会

協力：熊谷市教育委員会 社会教育課市史編さん室

※「荻野吟子～女医のパイオニアは埼玉出身！～」は、埼玉ゆかりの三偉人の魅力発信の一環で制作しました。

令和3年3月制作

令和3年6月発行

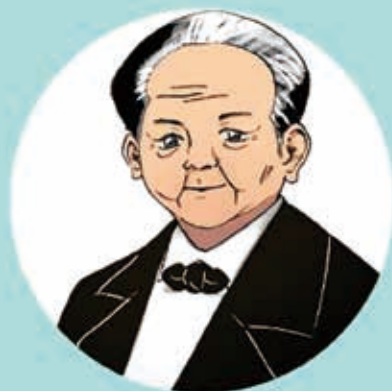
令和5年3月第2刷発行

埼玉ゆかりの三偉人

荻野吟子は埼玉ゆかりの三偉人の一人です



江戸時代に盲目の国学者として活躍
塙保己一



日本の資本主義の基礎を築いた大企業家
渋沢栄一



日本で最初の公認の女性医師
荻野吟子

彩の国  埼玉県



埼玉県マスコット
「コバトン&さいたまっち」